



北海道神経難病研究センター
2020年度活動報告

第9号

(2020年4月～2021年3月)

北海道神経難病研究センター

目 次

1. 2020年度活動報告について
2. 北海道神経難病研究センターの概要
3. 2020年度活動報告
 - (1) 神経難病臨床研究部門
 - (2) 神経難病リハビリテーション部門
 - (3) 神経難病看護・ケア部門
 - (4) 神経難病医療相談・福祉支援部門
4. 北海道神経難病研究センター主催講演会
 - (1) 第8回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会
 - (2) 神経難病緩和医療研究会活動報告

1 2020年度活動報告について

北海道神経難病研究センターは、平成23年7月に神経難病に関する病態解明および学術的治療研究、看護をはじめとしたコメディカルによる多角的臨床研究、神経難病患者を中心とした医療環境に対する調査・研究を行い、これら神経難病に対する総合的かつ包括的な研究を推進し、北海道における神経難病医療と環境の発展を図ることを目的に設立した。

研究センター全体としての活動は、平成23年度活動報告、平成24年度活動報告、平成25年度活動報告、平成26年度活動報告、平成27年度活動報告、平成28年度活動報告、平成29年度活動報告、平成30年度活動報告、平成31年度は2019年度活動報告として報告し、引き続き、2020年4月～2021年3月までの活動を2020年度活動報告としてまとめました。

2020年は新型コロナウイルス感染症が拡大し、生活様式が変わり、人が集まる会議、会合は控えられ、講演会もオンライン講演会となりました。

各部門での活動のほか、北海道神経難病リハビリテーション研究会の第9回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会はオンライン講演会として開催され、「パーキンソン病のリハビリテーション ～Up To Date～」を3部構成で開催し、SNSにより全国に開催が案内され、1,870名にご視聴頂きました。神経難病緩和医療研究会講演会は新型コロナウイルス感染症のため中止された。

これまでの多方面の方々からご支援賜りましたことを深謝申し上げますとともに、今後とも引き続きご指導、ご鞭撻下さりますよう、お願い致します

2021年4月

専務理事・センター長 森若文雄
代表理事 濱田晋輔

3 2020年度活動状況：

(1) 神経難病臨床研究部門

神経難病臨床研究部門は、医務部が各部と連携して活動している。業績、教育活動研修受け入れにわけて報告する。

【業績】

【社会活動】

【検診・医療班派遣】

1. 濱田晋輔他：令和2年度利尻礼文在宅難病患者訪問検診，稚内保健所 2020/09/09

【医療講演会・シンポジウム】

1. 野中道夫：パーキンソン病に似ているけれど違う病気のはなし、北祐会神経内科病院サロンあうる、2020/02/10
2. 本間早苗：「パーキンソン病治療 Up To Date」、北海道希少疾患フォーラム～フアブリー病／パーキンソン病～、2020/10/5
3. 森若文雄：「パーキンソン病患者の転倒と骨折」、パーキンソン病トータルケアを考える会 Web 講演会、2020/11/06
4. 野中道夫：「神経疾患から学ぶ高齢者の漢方治療」、北海道漢方領域別セミナー、TKP 札幌ビジネスセンター、2020/11/13
5. 濱田晋輔ほか：「COMT 阻害薬の位置づけを考える」、パーキンソン病を考える会、2021/02/26
6. 濱田晋輔：「CIDP の診療 10%免疫グロブリン製剤ビリヴィジェン®への期待」、CSL ベーリング WEB シンポジウム、2021/03/17
7. 本間早苗：「PD 非運動症状への取り組み」、パーキンソン病ライブ配信講演会、ホテルオークラ札幌、2021/03/25

【講演会座長】

濱田晋輔

1. LIVE 配信講演会、2020/10/30
2. パーキンソン病トータルケアを考える会 WEB 講演会、2020/11/6

3. LBD(Lewy Body Disease)オンラインセミナー、2020/1/27
4. 札幌パーキンソン病研究会、2021/03/05

【研究業績】

著書・総論・解説

1. 飯田有紀、千葉春子、池田聡、遠山晴一、生駒一憲：頭部外傷患者の復職における展望記憶の就労内容による相違、北海道リハビリテーション学会誌， 2021
2. Iida Y, Chiba H, Ikeda S, Tohyama H, Ikoma K:Association between the Wechsler Adult Intelligence Scale III and early return to work after traumatic brain injury, 2021
3. 森若文雄監修、内田 学編集、姿勢から介入する摂食嚥下 パーキンソン病患者に対するトータルアプローチ、メジカルビュー社（東京）、2020.9.10

(2) 神経難病リハビリテーション部門

理学療法領域、言語聴覚療法領域、作業療法領域別に活動を報告し、神経難病に関わるセラピストの座談会、北海道神経難病ケースカンファレンスと2019年度HAL実績を記載する。

【論文】

太田経介：脊髄小脳変性症におけるMini-Balance Evaluation System Testを用いた歩行自立度の判別精度の検討，理学療法学（47）3，215-223，2020

【学会発表】

1. 樫村 祐哉：脊髄小脳変性症患者における1Hz反復構音を用いた音圧変動の検討，第61回日本神経学会学術大会，2020/8/31
2. 重岡千夏：パーキンソン病患者の退職理由に関する調査，第25回日本難病医療看護学会・第8回日本難病医療ネットワーク学会合同学術集会，2020/11/20

【執筆】

1. 中城雄一：姿勢から介入する摂食嚥下パーキンソン病患者に対するトータルアプローチ第8章～パーキンソン病の摂食嚥下障害に対する多職種連携アプローチ～
2. 本間冬真：姿勢から介入する摂食嚥下パーキンソン病患者に対するトータルアプローチ第8章～パーキンソン病の摂食嚥下障害に対する多職種連携アプローチ～
3. 藤田賢一：姿勢から介入する摂食嚥下パーキンソン病患者に対するトータルアプローチ第8章～パーキンソン病の摂食嚥下障害に対する多職種連携アプローチ～

【講義】

1. 瀧川実美子：神経難病の理学療法，札幌医学技術福祉歯科専門学校，2020/5/8、19、25、28
2. 坂野康介、成田雅、太田経介、奥滝優太：web臨床実習（神経難病），北海道医療大学，2020/6/8、22、7/6、13、20
3. 坂野康介、太田経介：理学療法評価学（神経系），日本医療大学，2020/7/6，20，27

4. 坂野康介：web 臨床実習，日本医療大学，2020/8/3-4
5. 本間冬真：作業療法概論Ⅲ，札幌リハビリテーション専門学校，2020/09/23
6. 大橋哲朗：神経難病のリハビリテーション，北海道リハビリテーション大学校，2020/11/9、16
7. 鹿野咲：神経難病のリハビリテーション (wed 講義)，札幌リハビリテーション専門学校，2020/1/19

【講 演】

1. 太田経介：パーキンソン病における姿勢異常の評価と治療，PD リハビリ研究所主催，2021/1/23
2. 三好友佳：パーキンソン病における在宅での ST の関わり～嚙下・コミュニケーションのポイント，令和2年度第1回地域リハビリを学ぶ会，2021/3/8

【検 診】

1. 成田雅：利尻島・礼文島難病検診，2020/9/9-11
2. 藤田 賢一：北海道総合在宅ケア事業 苫前町 2020/9/14

【研修受入】

なし

【社会活動・ボランティア】

なし

【臨床実習受入】

本院

- 帝京平成大学 1名
- 北海道医療大学 1名
- 北海道医療大学 (web)
- 日本医療大学 (web)

クリニック

・北海道リハビリテーション大学校 1名

【2020年度医療用 HAL 実施実績】 延べ 22 件

筋強直性ジストロフィー	4 件
球脊髄性萎縮症	2 件
筋萎縮性側索硬化症	3 件
シャルコー・マリー・トゥース病	1 件
ネマリンミオパチー	1 件
パーキンソン病	1 件
進行性核上性麻痺	1 件
大脳皮質基底核変性症	2 件
脊髄小脳変性症	6 件
痙性対麻痺	1 件

(3) 神経難病看護・ケア部門

院外、院内研究会参加、看護部教育、認定看護師研修、対外活動を報告する。

【研修会参加状況】

1. 研究会参加状況

【院外研修】

新型コロナウイルス感染対策にて、研修参加なし

【院内研修】

日 時	研修テーマ	講 師	主 催	参加数 (看護職/全体)
2020年9月22日～1月	AEDを用いた救命処置	メーカーのDVD	医療機器安全管理委員会	全員
2020年12月～ 2021年1月	新型コロナウイルス感染症における感染対策 (DVD研修)	荻野貴志 NTT 東日本札幌病院 感染認定看護師	院内感染対策委員会	全員

【看護部教育】

日 時	研修テーマ	参加者	担 当
2020 年 4 月 1 日～3 日 6 日～7 日	入職時オリエンテーション ・各部署 各委員会の役割 と活動内容 ・看護記録 ・感染リンク ・セイフティマネジメント ・退院支援 ・電子カルテ ・医療機器 ・疾患講義 (PD、SCD、MS、ALS 末梢神経障害) ・コミュニケーション ・フィジカルアセスメント	2 名	看護部長 各委員長 教育委員 疾患別 (5 名)
2020 年 5 月 1 日	ラダー I 1 ヶ月を振り返って	1 名	教育委員
2020 年 8 月 5 日	ラダー I II 救急看護	2 名	教育委員
2020 年 8 月	ラダー II ケーススタディ (レポート)	2 名	教育委員
2021 年 3 月	ラダー II プリセプター研修	2 名	看護部長 教育委員

2. 対外活動

【実習受け入れ】

年 月 日	学校名 実習内容	受入数
2020 年 10 月 27 日	天使大学 1 年 基礎看護学臨地実習 I リモートによる臨床講義	100 名
2020 年 6 月 23 日～7 月 9 日	札幌保健医療大学 3 年 高齢者看護	中止

2020年9月29日～10月15日	札幌保健医療大学3年 高齢者看護	中止
2020年8月24日～9月4日	北海道科学大学4年 看護総合実習	中止

【印刷物関連】

年 月 日		
2020年9月	武田薬品工業株 パーキンソン病関連学術印刷物 「パーキンソン病患者にえがおを vol.3」	看護部長

(4) 神経難病医療相談・福祉支援部門

【年間事業計画】

1. 医療機関訪問

他医療機関との連携が円滑に行えるように当部署の役割分担を院外に周知するという目的と、最近連携を図る機会が増えた医療機関の情報収集の目的、これまで連携をしている医療機関への感謝とさらなる連携強化を行う目的で医療機関訪問を選定し、医療機関を訪問する予定だったが、今年度は COVID-19 感染の流行の影響により、実施が困難と判断した。訪問という手段をとることが出来なかったが、目的を果たすために、日常的に連携して下さっている医療機関等には文書や電話等の手段をとり、当院・当部署の役割について周知を行い、患者様に関する情報収集は継続して行うことができた。今年度に新設された『PDハウス西野』へは、感染対策を徹底し、開設前に見学に伺い施設見学や担当者による説明を受ける事ができ、今後の退院調整にも繋げられると考えている。

次年度以降は、訪問に加えて当院・当部署の役割を周知できる方法を検討し、連携先の開拓や連携強化を目的とした訪問活動を行えるように努めたい。

2. サロン活動

COVID-19 感染流行の影響により密を避けるため、開催は見送ったが、神経難病の患者さんと支えるひとのための活動を休止することは考えにくく、他の手段を企画検討した。

患者・家族向けのサロン

『広報誌あうる』を作成し、サロンに参加した患者様には郵送し、院内に設置をする方法で、『当院の特徴や感染対策の現状』、『当部署の紹介』、『これまでのサロン活動の取組み』に関しての情報提供を行った。当院職員と患者様、患者様同士の交流という場の提供は出来なかったが、次年度も様々な手段で活動を継続する方法を検討していく。

在宅療養支援者向けのサロン

『あうる NEWS』を作成し、これまでサロン案内をした居宅介護支援事業所と訪問看護ステーション宛に郵送し、『当院の現状や感染対策について』、『当部署の紹介』、『これまでのサロン活動の取組み』に関しての情報提供を行った。また、今度のサロン開催方法や内容を検討する目的でアンケートを実施し、サロンの定期開催の希望やオンライン

開催についての希望、サロンのテーマの希望などのご意見を回収しており、次年度の活動に活かしていきたい。

COVID-19 感染の影響により、在宅療養支援者向けのサロンのアンケート結果にもあるように、オンラインでの研修開催が日常化している。一人でも多くの方にサロン活動に参加して頂けるように、オンライン開催への環境整備等を行い、企画を検討していきたい。

3. 院内研修・研究活動

今年度も例年通りの集合研修の開催を予定していたが、COVID-19 感染の影響により、実施が困難であると判断した。研修会開催以外の手段で病院職員が患者様のために知識を深められるような機会を検討し、資料配布という形で情報発信し、院内研修を行った。

当院で診療を受けている患者様に必要で、当部署でしか発信できないもの・当部署の役割を発揮できるようなものを念頭に、テーマの選定を行った。3月下旬から4月初旬にかけて、各部署・クリニックに配布。今後も、様々な手段を検討し、開催したいと考えている。

また、下記の講義・講演の依頼もあり、協力をさせて頂いた。

月 日	担当者	名 称
2020年7月4日	近藤 みずき	「キャリアラダー研修会」：ファシリテーター (一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会)
2020年9月13日	近藤 みずき	「中央支部第三回新人研修会」：ファシリテーター (一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会)
2020年10月10日	近藤 みずき	実践講座「身寄りのない方の退院支援」：ファシリテーター (一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会)
2020年12月4日	近藤 みずき	「アセスメント研修」：事例提供、ファシリテーター (一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会)
2021年2月19日	近藤 みずき	「理論研修～知識編～」：ファシリテーター (一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会)

4. 地域社会福祉活動

【検診や医療相談】

月 日	担当者	名 称
2020年 9月9日～11日	小林 陽子	令和元年度神経難病患者訪問検診 ～礼文町、利尻町、利尻富士町 (稚内保健所利尻支所)

【研修会・学会参加】

月 日	参加者	名 称
2020年4月24日 オンライン配信	小林 陽子	令和2年度診療報酬制度改定説明会 (公益社団法人 日本医療社会福祉協会)
2020年5月30日 オンライン配信	小林 陽子 近藤 みずき 河野 光香 下川 満智子	ALS Café Webセミナー (東邦大学医学部内科学講座神経内科学分野)
2020年7月4日 オンライン配信	河野 光香	キャリアラダー・モデル研修会 (一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会)
2020年9月26日 オンライン配信	河野 光香	ALS Café Webセミナー (東邦大学医学部内科学講座神経内科学分野)
2020年10月31日 オンライン配信	近藤 みずき	「医療同意と意思決定」 (一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会)
2020年11月5日 オンライン配信	近藤 みずき	「新型コロナウイルス感染症の対応を通して MSW の役割を考える」 (一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会)
2020年11月7日 オンライン配信	近藤 みずき	「北海道高次脳機能障害リハビリテーション講習会」 (北海道高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会)
2020年11月20日～11月21日 オンデマンド配信	下川 満智子	第25回日本難病看護学会 第8回日本難病医療ネットワーク学会 合同学術集会

2021年1月22日 オンライン配信	小林 陽子 近藤 みずき	「コロナ禍での医療ソーシャルワークの業務の在り方」 (一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会)
2021年1月25日 ～2月14日 オンライン配信	近藤 みずき	2020年度ソーシャルワークにおける就労支援 (公益社団法人 日本医療社会福祉協会)
2021年1月30日 オンライン配信	河野 光香	中央E支部のつどい (一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会 中央E支部)
2021年2月5日 オンライン配信	小林 陽子 河野 光香 近藤 みずき	「Nuroscience Academic Program～神経難病と災害 対策」 (北網圏域難病対策協議会/武田医薬品工業)
2021年2月5日 ～3月20日	中山 宰歌	社会福祉実習指導者講習会 (公益社団法人 日本医療社会福祉協会)
2021年2月6日 オンライン配信	近藤 みずき	「スーパービジョン研修会」 (一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会)
2021年2月18日 オンデマンド配 信	下川 満智子	第2回 SARAYA 感染対策 Web セミナー【介護福祉施設編】
2021年2月27日 オンライン配信	小林 陽子	医療従事者向け ACP 研修 (北海道在宅医療推進支援センター)
2021年2月27日 オンライン配信	小林 陽子 近藤 みずき	令和2年度両立支援コーディネーター基礎研修 (独立行政法人 労働者健康安全機構)
2021年3月7日 ～3月20日 オンデマンド配 信	小林 陽子 中山 宰歌 河野 光香 近藤 みずき	スピリチュアルペインに寄り添うソーシャルワーク支援 (日本ソーシャルワーク教育学校連盟北海道ブロック)
2021年3月12日 オンライン配信	近藤 みずき	「令和3年度介護報酬改定 地域連携への影響と対策」 (一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会)
2021年3月13日 オンライン配信	河野 光香	インシデントプロセスによる事例検討会 (一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会 中央E支部)

【インタビュー他】

月 日	参加者	名 称
2020年 10月9日	小林 陽子	Web サイト CIDP コンシェルジュ内「診療最前線」 グループインタビュー（公開日 2021年1月末）

【各室業務報告】

I：医療相談室

（1）医療相談業務 総相談件数：7140件（前年度 8131件、991件減、前年比 87%）

今年度も移転先での勤務となり、COVID-19 感染予防対策等で年間を通して全般的に業務活動の縮小傾向の影響があり、相談件数自体は減少傾向となった。当室では MSW4 名体制で相談業務を遂行している。入院と外来の相談を合わせて月平均 595 件、日平均 29 件（ケース）の相談を対応した。面接や会



議・訪問等対面の支援方法には制限があり減少しているが、院内スタッフ間の連携や電話対応・文書での情報共有等の支援方法含め 6～10 月の期間は昨年に近い件数の支援を実施していた。しかし、緊急事態宣言下及び院内感染対策強化後の 11 月以降は対応件数が減少している。

1) 入院と外来の対応傾向

入院中の支援が 68%、外来通院中の支援が 30.2%と昨年同程度の 2:1 の比率で対応した。

入院患者への介入率は全体の 65%と前年よりも 9%近く上がっており、入院している患者層による変動はあるが、今年度は平均し

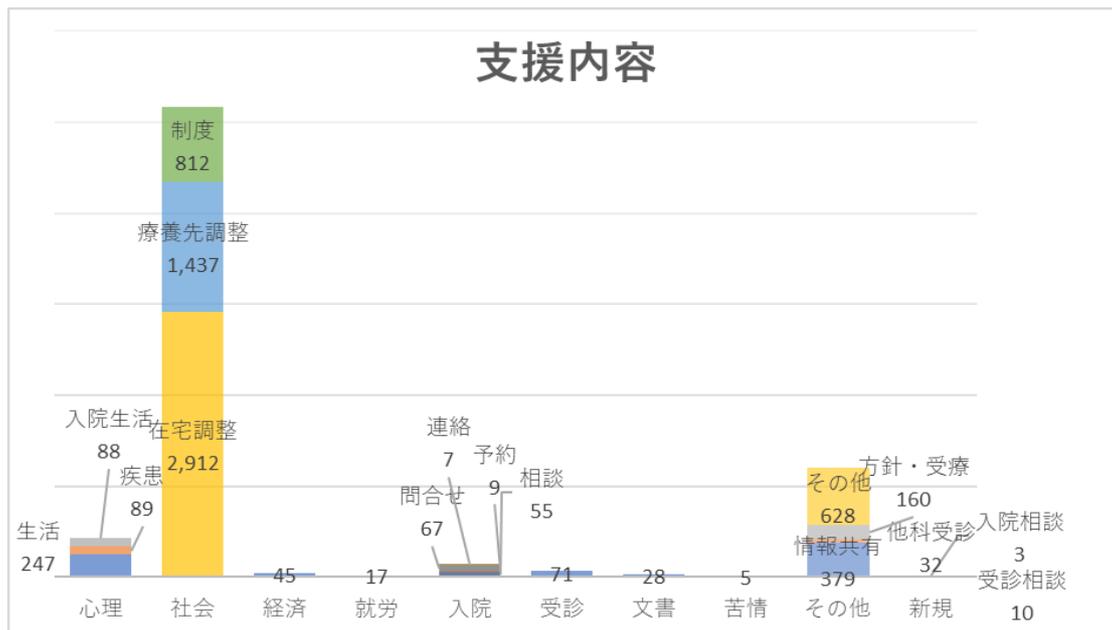


て入院患者の 8 割以上に支援介入を行えていることが分かる。

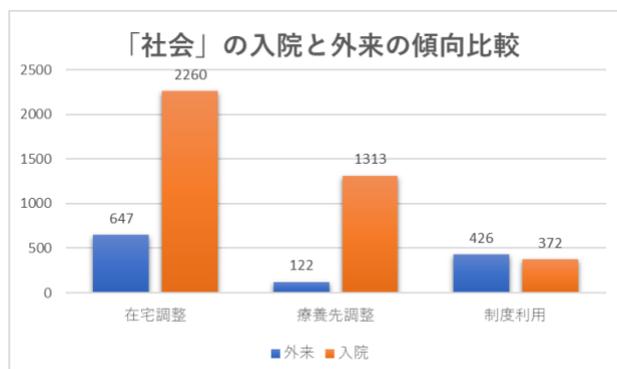
入院中の退院支援を含む調整支援に力を入れつつ、外来でも適宜必要時は支援介入でき

るよう担当制のソーシャルワークを行い、部内だけでなく、他部署とも入院前の情報共有や退院後の状況確認等継続した支援が行えるように取り組んでいる。

2) 支援内容



支援内容は昨年同様で外来・入院共に「社会」が最も多く、2番目に「心理」、以下に「入院調整」、「経済」、「就労」の項目が続く。「社会」の内訳としては「在宅調整」が2912件で60%弱を占め、在宅や居住している施設への退院調整や外来患者へのサービス情報提供、新規サービスの導入に関する支援が入院・外来共に半数を超えている。他、「社会」には「療養先の調整」や「制度利用に関する相談」が含まれるが、入院では「療養方針の検討」、長期療養先の選定・移行支援、入所、転院調整が1313件(33%)、



「制度利用に関する相談」が372件(10%)に対し、外来では「制度利用の相談」が426件(36%)、「療養方針の検討」が122件(10%)と逆転する。これは外来での相談傾向、医師や外来スタッフからの制度利用の案内・相談の依頼が多いことや外来の時点から療養先検討・調整支援を実施し

ている結果が反映されていると考えられる。

その他、外来での支援としては、入院予約に関する相談や問い合わせの対応を中心に138件(前年比38%)、受診に関する相談が71件(前年比67%)となっている。

昨年度の「その他」の支援内容を分析した。直接支援前の院内スタッフ間の連携（「院内情報共有」）や今後受診や受療などの治療方針の援助につながる相談（「方針・受療」「他院受診」）に関わる相談調整の3項目の支援が多い傾向があったため、今年度は項目を増やし、集計した。「社会」「心理」の相談に続き、「方針・受療」に関する対応が160件とMSWも他部署スタッフと協力しながら支援していることが分かる。「院内情報共有」に関しても739件と多く、細かな情報共有を通して院内連携を行っていることが反映されている。また今年度の傾向として、「その他」628件のうち、11月後半～12月にかけてのCOVID-19院内感染に関連する連絡調整対応（退院後の健康確認連絡等含む）が7割の440件近くを占めていた。

3) 支援方法



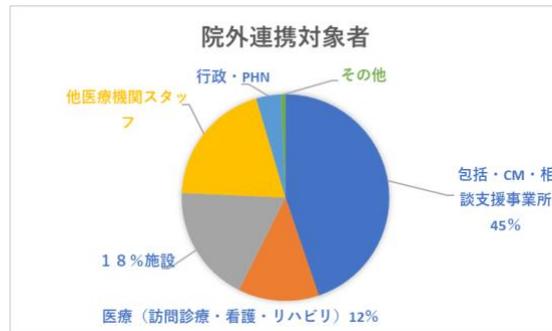
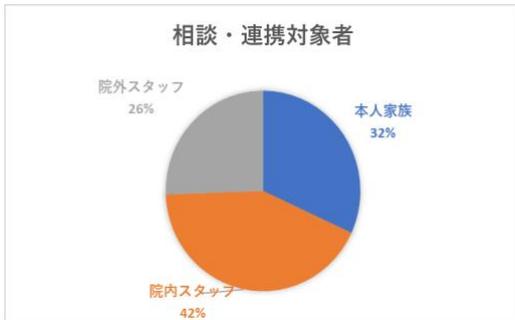
今年度も「スタッフ間の調整」が40%（前年比97%）と一番多く、「電話対応」が34%（前年比108%）、「面接」が15%（前年比64%）であった。感染対策の一環で面接やカンファレンス・家屋訪問等の手段が取れず、件数が減少したが、スタッフ間の調整や電話対応・文書による情報提供で支援を継続することができた。

4) 支援者対象の傾向（1日の対応で複数との調整をしている場合は主な対象者の統計）

例年は「患者本人家族」からの相談が半数近いが、今年度は病院工事などの環境面や

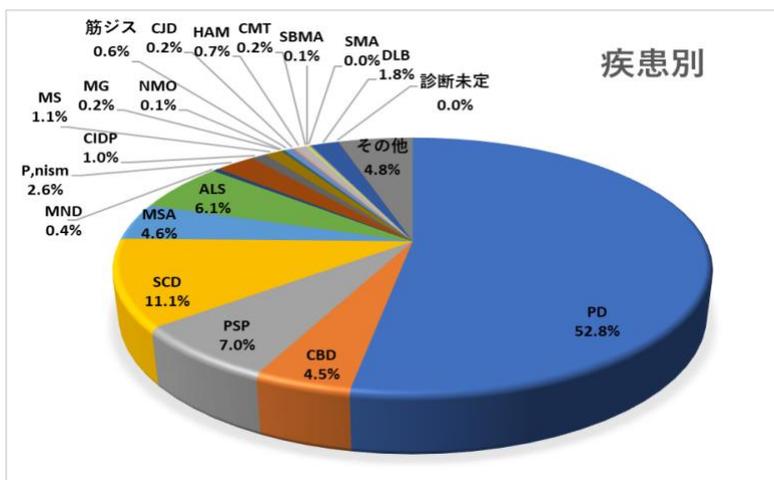
面会機会の制限・減少なども影響し、「患者本人・家族」からの相談は 2926 件で 32%に減少した。「院内スタッフ」との連携が 3905 件で 42%と昨年に比べ 9%増加した。また「院外（地域）スタッフ」との連携も 26%と 4%増加した。

院外、地域のスタッフとの連携の内訳は相談職スタッフとの連携が 45%を占め、その中でも CM が 977 件と一番多い。次に多かったのが他医療機関スタッフと施設スタッフが昨年より 5%ほど増えて、訪問の医療スタッフより多く連携している結果となった。



5) 疾患別相談件数の割合

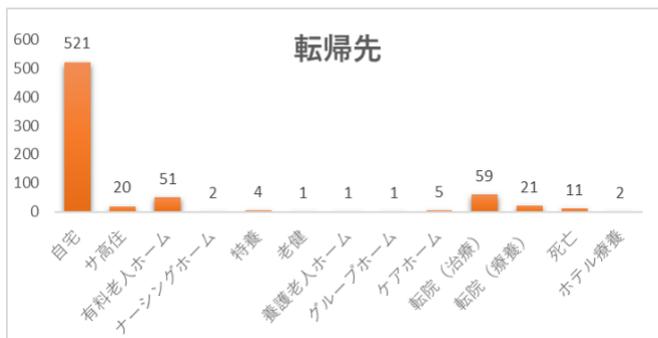
□ 相談件数の割合では、例年通り PD が最も多く今年度は 52.8%と半数を超えた。他、傾向としては ALS、MND は昨年より対応件数として半分近く減少、また CIDP や筋ジ



スは 1/4 に減少し、PD や DLB の件数は全体数が減少している中でも昨年と変わらない件数の支援対応があった。

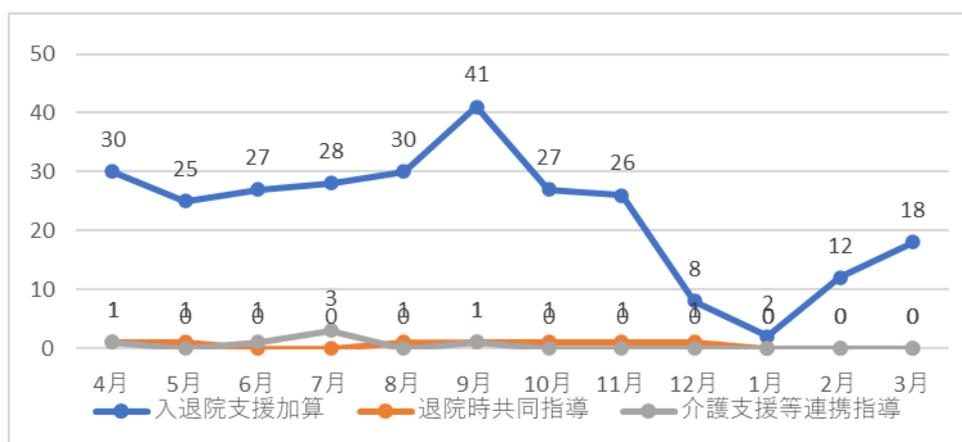
6) 転帰先

665名退院のうち、74.5%の521名が自宅退院。12%近くの方が施設（医療機関以外）へ新規入所・入居もしくは帰っている。他治療・療養目的あわせて転院が12%で全体の傾向と割合の変化はないが、療養目的の転院が前年比56%で減少傾向だった。



7) 診療報酬に関わる業務

「介護支援連携指導料」の算定は、ケアマネジャーの来院規制・自粛も重なり6件、「退院時共同指導料」もカンファレンスが同理由で実施しにくいため7件と増加にはつながらなかった。「入退院支援加算」については合計274件で前年から8件減であった。部内の外来関連の患者支援の役割編制が進んだことで、入院患者の支援介入する機会も増加し、上半期は平均30件弱のペースであったが、下半期はCOVID-19感染の影響で入院の数も減少し、短期間の入院患者の支援（加算対象外）や退院調整のコントロール等も影響し、下半期は平均15件と半減した。



今年度から難病患者も対象になった就労支援に関する「療養・就労両立支援指導料」については、患者の勤務先からの書類（勤務情報提供書）も含めた連携が必要となる。また当院からも産業医や企業に向けた主治医意見書の作成があれば算定できるが、書類が発生する支援までには至らないことが多いため、算定につながっていない

い。当院においては、加算対象者は、現状として多くはないが、支援の必要性や条件が整う場合には、就労支援の一環として MSW から就労支援の方法の周知や案内を積極的に行っていきたい。

8) その他

個別援助以外の 36 件の内訳は、地域連携に関わる他医療機関や施設などの来訪対応、難病検診の準備対応、CIDP のインタビューへの参加、他部署と協働にてマニュアルの作成、サロン活動などの部内、相談室内の個別相談以外の事業の準備対応になる。今年度は、これらの対応も感染対策の影響で縮小傾向にあった。また、他院の MSW や CM などから当院への相談だけに限らず、神経難病専門病院への相談として、神経内科疾患の方が利用できる社会資源や制度、支援の仕方について問い合わせの相談も含めて、今年度は ALS 患者支援に関する問い合わせが例年に比べ多い傾向があった。

(2) 地域社会福祉活動

今年も利尻礼文難病検診事業実施に伴い、9月に3日間参加した。医師と理学療法士とともに2町、9名の検診を地元の医療、保健、介護スタッフと連携し行った。今年度は新規の患者はいなかったが、島外の受診、入院対応も自粛されている方も多く、改めて検診事業の大切さを実感した。

その他、CIDP の WEB サイト「診療最前線」グループインタビューに参加した。地域医療支援部の活動や MSW の支援についてチーム医療の観点から伝えていく機会に貢献することができた。

(3) 教育活動

今年度は、病院建て替え工事の環境要因と感染対策等により、学生実習は受けなかったが、社会福祉士実習を受けるための必須要件である研修に参加することができた。また、実習プログラム作成に向けてプログラミングワークシートの土台作りを行った。他、クリニック MSW も交えた SW 学習会を実施した。事例検討会を1回実施し、昨年に引き続きソーシャルワーク理論学習にも取り組み、慢性進行性の神経難病の特徴に応じたソーシャルワークの実践のスキル向上を目指した。次年度も感染対策に配慮しながら学習会は継続していきたいと考える。

(4) 業務改善活動

MSW記録日報の管理やマニュアル作成、同法人内の連携業務の強化、患者様への就労支援状況の実態調査、加算算定業務、研究発表に向けての準備検討などを、当室内で分担を行い業務が円滑に遂行できるよう取り組んだ。

(5) 調査研究活動

1) 地域課題研究プロジェクト

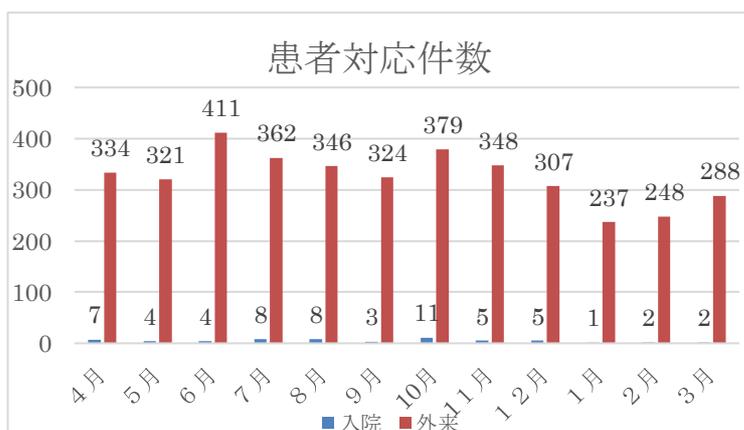
2018年から引き続き、地域課題研究プロジェクトを遂行し、地域課題分析を通して「市外からの入院患者に対するSW支援報告」としてまとめた。この取り組みを通して、MSWの支援の傾向を振り返り、チーム医療としての当院のアプローチの手法や各地域の特徴の把握、継続的な支援における連携の重要性を改めて学ぶことができた。課題提起までは到達しなかったが、今後の業務に当室として活かすだけでなく院内スタッフへ向けても報告していきたいと考えている。

II：地域連携室

(1) 連携業務

「受診・入院相談」、「新患、再来予約」、「外来・入院患者の他院受診調整」「文書処理」を担った。

1) 患者対応件数・・・外来患者 月平均 325件 / 入院患者 月平均 5件



外来患者対応の総数は3905件。前年度と比べると対応件数変わらないが、COVID-19感染の影響により対応内容に変化があった。入院患者対応では、総数が60件。前年度と比べると、大きく減少した。これらは感染対策の強化により、入院患者の他科受診調

整件数が減少したためだと考える。

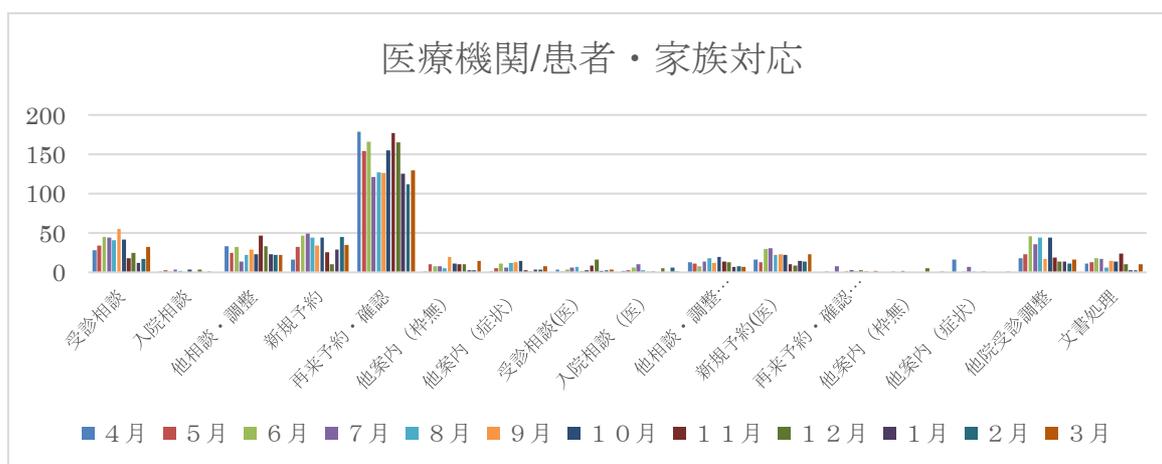
	患者・家族から	医療機関から
受診相談	月平均 32.6 件／昨年比-6 件	月平均 5.1 件／昨年比+0.6
入院相談	月平均 1.6 件／昨年比-1.4 件	月平均 3.2 件／昨年比-1.0
再来予約・確認	月平均 144.8 件／昨年比+25 件	月平均 1.75 件*
他受診調整	月平均 25.2 件／昨年比-2.7 件	
文書処理	月平均 12 件*	

*・・昨年の1月からの集計のため前年度比較無し

2) 対応内容

COVID-19 感染流行の影響で医療機関受診を控えた方が多く、再診予約変更や電話再診調整等の件数が多かった。受診相談、入院相談の件数が減少したが、患者・家族からの再来予約・確認については増えている。

他院受診調整も昨年と比較し減少している。特に多く連携している、L S I 札幌クリニックでは前年度と比較し 24 件減少している。これらは COVID-19 感染対策のために、入院中の他科受診調整を控えることが徹底されていたのだと考える。



COVID-19 感染の院内クラスター発生時には、すでに予約をしていた新規患者に対して、診療再開時に受診できるよう継続的に連絡をとり、必要に応じて他神経内科へ受診できるように調整業務を行った。また、連携している医療機関へ院内の状況や診療体制について随時情報提供を行った。

(2). 新患予約について

	予約枠数	予約数	稼働率	臨時 予約数	他院へ案内 (予約枠 が無い)	他院へ案内 (症状によ り)
4月	75件	48件	64.0%	0件	1件	17件
5月	50件	44件	88.0%	0件	11件	5件
6月	86件	71件	82.6%	1件	8件	16件
7月	87件	77件	88.5%	1件	10件	13件
8月	74件	69件	93.2%	3件	5件	13件
9月	65件	63件	96.9%	0件	20件	13件
10月	80件	67件	83.8%	1件	11件	16件
11月	40件	35件	87.5%	1件	10件	3件
12月	35件	13件	37.1%	0件	15件	1件
1月	66件	55件	83.3%	0件	3件	4件
2月	73件	55件	75.3%	0件	3件	4件
3月	71件	58件	81.7%	2件	16件	9件

※ 新患予約数ではなく稼働率のため、新患枠に再来予約が含まれている

※ 火曜日のPMの新患枠は医師の都合を確認の上、調整する必要があり時間を要するため、予約枠数から外している

4～5月は COVID-19 感染流行のため、緊急事態宣言が出されている時期であり、予約数の減少に影響していると考えられる。8月2週目には医師の退職があり、通常よりも予約枠が少なくなったことが影響しており、新患予約の減少がみられる。9月は稼働率が一番高かったが、受診相談の連絡自体が多く、当院での予約を取ることができずお断りした件数が一番多い。11～12月は COVID-19 感染の院内クラスター発生のため診療の休止の影響で予約数が減少したことが分かる。1～3月は、COVID-19 感染の第3波の影響や悪天候の影響により受診行動自体が減少している傾向があった。

『受診相談を受けたが受診予約に結びつかなかったケース』は、合計 227 件であった。内訳としては、急性期症状や検査環境の整った医療機関受診が適切だと判断した件数が合計 114 件、希望日に診察枠が無く予約案内ができなかった件数が合計 113 件であっ

た。

(3) 主な連携先医療機関

医療機関名	件数	医療機関名	件数	医療機関名	件数
イムス内科消化器中央総合病院	37	ごう在宅クリニック	4	札幌山の上病院	4
いわみざわ神経内科・内科CL	15	ことにメディカルサポートクリニック	4	札幌宮の沢脳神経外科病院	9
だい整形外科クリニック	9	コンフォート豊平クリニック	7	リラ整形外科	4
ホサナファミリークリニック	4	さっぽろ神経内科病院	10	札幌整形外科	9
えべつ神経内科	11	札幌医大病院	7	札幌整形・循環器病院	7
愛育病院	8	札幌円山整形外科病院	18	札幌西整形外科	11
札幌中央病院	5	札幌琴似整形外科	4	岡本病院	8
札幌東徳洲会病院	8	市立札幌病院	14	手稲いなづみ病院	6
手稲溪仁会病院	24	アルデバラン二十四軒病院	4	新さっぽろ脳神経外科病院	10
北海道整形外科記念病院	80	ひぐち耳鼻咽喉科	7	石狩中央整形外科	4
中村記念病院	7	北海道医療センター	21	苫小牧市立病院	10
表参道ペインクリニック	3	北大病院	14	北海道大野記念病院	18
北海道内科リウマチ科病院	10	北海道脳神経外科記念病院	16	LSI札幌クリニック	66
あさの整形外科クリニック	3	いまいホームケアクリニック	11	あすなる整形外科	7
JCHO北海道病院	5	札幌麻生整形外科	6	我汝会さっぽろ病院	6

小樽市立病院	14	札幌麻生脳神経外科	14	勤医協札幌病院	4
KKR札幌医療センター	7	札幌宮の沢脳神経外科病院	9	勤医協中央病院	5
桑園整形外科	3	恵庭みどり野クリニック	4	恵佑会札幌病院	4
札幌しらかば台病院	4	札幌パーキンソンMS神経内科CL	6	札幌記念病院	6
札幌禎心会病院	4	リラ整形外科	4	手稲家庭医療	6
手稲山クリニック	3	手稲脳神経外科	3	清田病院	4
石狩病院	4	帯広厚生病院	3	中村記念南病院	4
中田泌尿器科	7	長沼整形外科	3	長沼内科・消化器	8
土田病院	7	山の手通八木病院	3	ふかざわ病院	3

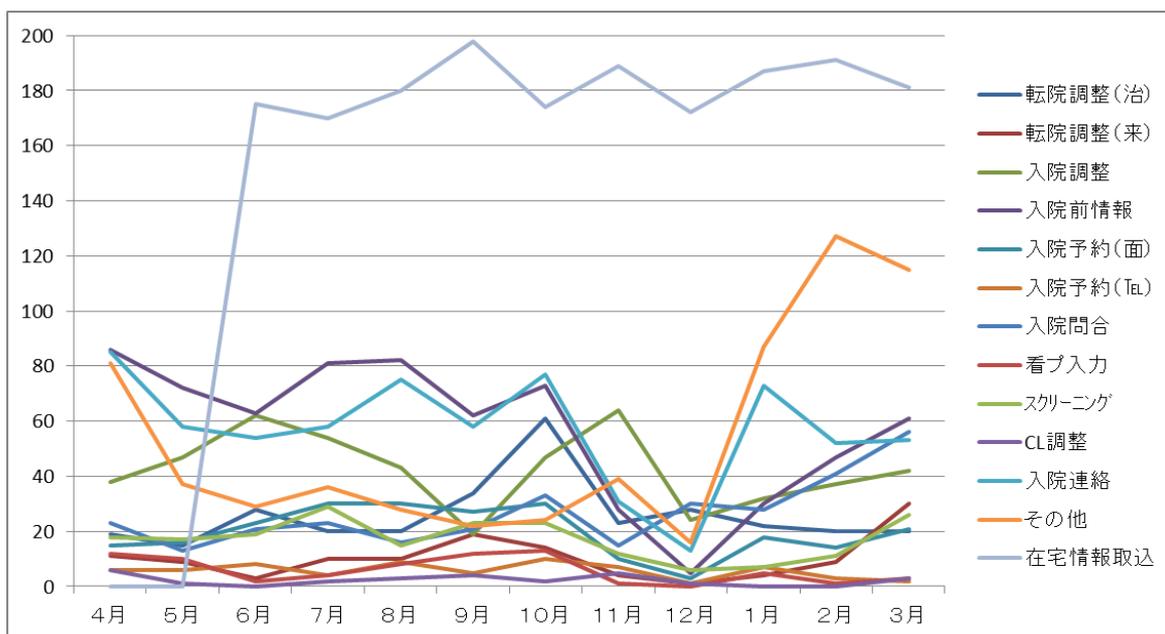
Ⅲ：入退院支援室

入院調整・転院調整の窓口としての役割を持ち、「転院調整」「入院調整」「入院前情報収集」「入院予約」「入院問合せ対応」「情報管理」「スクリーニング」「クリニック調整」「入院日連絡」「その他」を中心に業務を遂行した。

（１）業務の分類・分析

1) 転院調整（治療）：310件／年

当院入院中の患者様が当院では担えない急性期の治療や外科的な処置を目的としての転出院・転入院調整を行った。調整先の医療機関は昨年度と同様で、『イムス札幌消化器中央総合病院』『土田病院』が多くを占めており、次いで『北海道医療センター』『市立札幌病院』『札幌円山整形外科病院』『北海道大野記念病院』『北海道脳神経外科記念病院』となっている。11月～12月にかけては、外科的な処置のための調整ではなく、COVID-19感染関連の急性期治療目的での調整が主となっている。



2) 転院調整 (来) : 124 件/年

当院外来や病棟を経由せず他院に入院され、治療を終えて当院に入院する転入調整を行った。入院受入れを休止していた11月以降は、調整数が減少しており、3月は通常通りの調整数となっている。転院依頼の内容としては、脳出血や脳梗塞、肺炎や脱水等の急性期治療後や転倒による骨折等の治療後の退院支援・退院調整目的が多かった。調整先の医療機関としては、『北海道医療センター』『勤医協中央病院』『札幌東徳洲会病院』『札幌徳洲会病院』『手稲溪仁会病院』『JCHO 北海道病院』『JCHO 北辰病院』『KKR 札幌医療センター』などの救急機能のある医療機関や、『札幌円山整形外科病院』『北海道整形外科記念病院』『琴似整形外科』『札幌第一病院』などの整形外科、『麻生脳神経外科病院』『北海道脳神経外科記念病院』などの脳神経外科のある医療機関が多かった。また、札幌市外から通院している患者様が多い当院の特徴もあり、『余市協会病院』『倶知安厚生病院』『恵み野病院』『町立長沼病院』などの医療機関との調整もあった。

3) 入院調整 : 509 件/年

即日入院をする環境を整えるのが難しい状況は続いており、COVID-19 感染症の蔓延により他院への待機入院調整も多くの手順を踏むようになり、在宅サービスが休止となり介護者の負担が増え、レスパイト入院を希望する件数も増えた。

入院予約時に「緊急度」が指示されるが、入院前面接中に様々な生活背景から緊急度を上げる必要があったり、治療を早期に受ける必要があると判断されることも少なくない。そのため、入院前面接と並行して近日中の入院が可能か調整を図ることが多かつ

た。

4) 入院前情報収集：690 件／年

以前より、入院前支援として在宅スタッフや転院前の医療機関から情報提供を頂き、院内での情報共有に努めていた。ケアマネジャーと訪問看護ステーションへの情報提供を依頼することが多かった。例年通り、FAX や郵送で情報提供を頂き文書取込をした上で看護プロファイルへの入力追加をする他、電話でのやりとりを記録した。入院を担当する職員スタッフの業務負担の軽減と、事前に予測対応ができ、それが患者様の安全で安心した入院生活になることを期待している。

5) 入院予約（面接）：237 件／年

当院外来にて入院予約をした場合には、直接患者様やご家族に面接を行い、入院生活の説明や必要時は制度や入院費用についての説明を行っている。今年度は、COVID-19 感染症の影響もあり、今まで以上の情報量を説明し同意を得なければならなかった。11～12 月は、外来診療や入院受入れの休止もあり少なかったが、その他の月は 15～30 件の対応をしている。また、面接で得た情報は、看護プロファイル入力や記録を行うだけでなく、施設入所の患者様に関しては施設スタッフにも入院前検査の説明や入院案内などの説明も追加する必要があった。

6) 入院予約（TEL）：68 件／年

当院の医師が出張先（苫小牧、北見、室蘭）の診療において治療目的での入院予約を伝えた場合には、こちらから電話で上記内容を聴取し、必要な入院書類等を郵送対応を行っている。

7) 入院問合せ：320 件／年

問合せの内容としては、入院予約待機中の患者様やご家族から「入院の目途はいつですか？」というものが多くを占めており、その他には「入院の持ち物」「書類の書き方」などが聞かれることが多かった。問合せのタイミングで、患者様の体調の変化を伺ったり、入院緊急度を変更する調整をしたり、緊急性があると判断された場合には入院調整を行った。入院調整を窓口とした役割の徹底により、情報の一元化ができるようになり、部署内だけではなく他部署への情報提供・共有が行えるようになった。

8) 看護プロファイル入力：71 件／年

在宅スタッフからの情報を追加入力した。入院に関わらず、訪問看護報告書などの情

報も入力し、タイムリーな情報共有に努めた。

9) 退院支援スクリーニング：206 件／年

病棟や外来を経たパス入院の申込や、同法人クリニックからの入院申込に関して、スクリーニングを行う業務である。

10) クリニック調整：27 件／年

入院患者様が退院後に同法人クリニックに通院リハビリを受ける場合に、受診調整を行う業務である。件数としては多くはないが、入院患者様・クリニックスタッフとの連絡調整をタイムリーに行わなければならない業務である。

11) 入院日の連絡：687 件／年

入院日が決定したら、患者様に連絡する業務である。しかし、入院日程を伝えるだけではなく入院待機中に変更した内容やご協力頂きたい内容をアナウンスしたり、患者様によっては書類を郵送したりすることが必要となる。また、感染対策に関する協力依頼や入院前検査の日程連絡調整も追加になり、随時修正もあるので、その都度確認を繰り返して行っているため、常に正確な情報収集を行い情報共有に努めている。

12) その他：641 件／年

予測していた内容としては、1)～11)に含まれない業務である、入院に関する書類の郵送や季節的なアナウンスを考えていた。しかし、11～12月のCOVID-19感染院内クラスター発生時期には、退院後の患者様の健康調査フォローや外部医療機関・在宅スタッフからの問合せ対応や情報共有等の業務があり、クラスター終息後には、入院前PCR検査結果の文書取込と患者様への連絡等の業務や入院時持参の体調チェック表の文書取込などの業務が増えたことが件数増加に繋がった。

13) 在宅からの情報提供を文書取込：1817 件／10 か月（6～翌年3月）

在宅からの情報提供には、「訪問看護報告書」「居宅サービス計画書」「通所又は訪問リハビリ報告書」などがある。訪問看護ステーションからの報告書は月に平均150件近くあり、業務としての負担は高いが、当院の患者様が在宅で生活する上でこれだけの医療を必要としているという事が分かる。また、訪問看護からの問合せ時にも、頂いた報告書を基に対応できるようになったので、連携や調整が図りやすくなったと考える。

4. 北海道神経難病研究センター主催講演会

第9回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会、その他の活動

【第9回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会】

北海道神経難病リハビリテーション研究会

＜神経難病に関わるセラピストの座談会＞

第35回座談会 WEB開催 2020年10月20日

「コロナ禍でみんなどうしてる？」

～家族指導・自主トレ指導・情報収集・ストレスマネジメント～

参加者：14名

第36回座談会 WEB開催 2021年3月18日（木）17：30～19：00

参加者：15名

方法：ZOOMのアウトブレイク機能を用いてグループワークを開催

ルーム1 「姿勢に関するアプローチ」について

- ・デイサービスでのリハの様子やアプローチで困っていること
- ・当院リハの様子や評価時に注意して見ていること、リハ時に工夫していること

ルーム2 「歩行障害と練習方法、自主トレ」について

- ・デイサービスでのリハの様子やアプローチで困っていること
- ・当院リハの様子や評価時に注意して見ていること、リハ時に工夫していること

ルーム3 「病気と共に生きていくためのリハビリテーション」について

- ・進行を遅らせるためのリハビリテーション
- ・在宅生活を意識した関わりかた

＜北海道神経難病ケースカンファレンス＞

活動なし

＜第9回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会＞

「パーキンソン病のリハビリテーション ～Up To Date～」

Part 1 2020年9月27日13：00～14：30

旭川医科大学生理学講座神経機能分野 教授 高草木薫先生

「大脳基底核の機能と姿勢制御 ～パーキンソン病を中心に～」

参加者：572名

Part 2 2020年10月11日13:00～14:30

摂南総合病院 リハビリテーション科科长 奥埜博之先生

「すくみ足のリハビリテーション ～病態理解から実践アプローチ～」

参加者：738名

Part 3 2020年10月18日13:00～14:30

畿央大学大学院健康科学研究科 准教授 岡田洋平先生

「パーキンソン病リハビリテーションの現状と今後の展望」

参加者：560名

第9回北海道神経難病 リハビリテーション研究会講演会Webinars

●有効アンケート数: 328件(重複除く)/991件

●参加者の所属都道府県 回答: 327件

都道府県	回答数
北海道	114
青森県	8
岩手県	1
秋田県	4
福島県	4
茨城県	4
群馬県	7
埼玉県	8
千葉県	15
東京都	23
神奈川県	5
新潟県	5
富山県	1
石川県	2
長野県	7
岐阜県	4
静岡県	14
愛知県	5

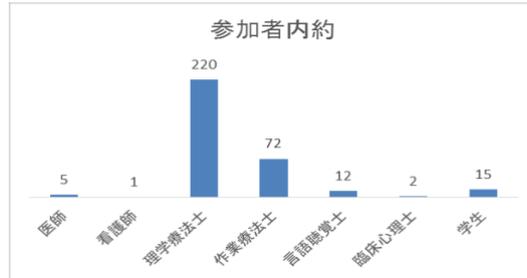
都道府県	回答数
三重県	1
滋賀県	3
京都府	3
大阪府	37
兵庫県	11
奈良県	8
鳥取県	2
島根県	1
広島県	3
徳島県	2
香川県	4
福岡県	9
佐賀県	1
熊本県	4
宮崎県	1
鹿児島県	3
沖縄県	3



第9回北海道神経難病 リハビリテーション研究会講演会Webinars

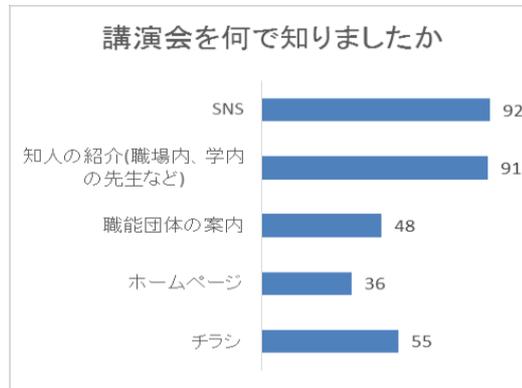
●参加者の職種内訳 回答:327件

職種	
医師	5
看護師	1
理学療法士	220
作業療法士	72
言語聴覚士	12
臨床心理士	2
学生	15



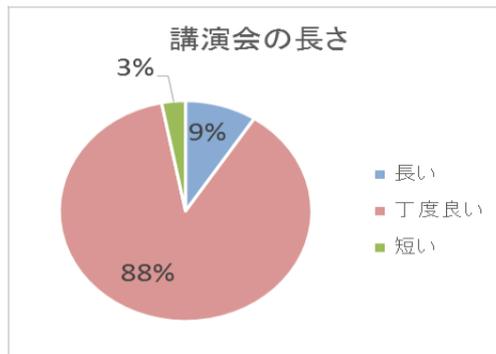
●講演会情報をどこで知ったか 回答:322件

講演会を何で知りましたか？	
チラシ	55
ホームページ	36
職能団体の案内	48
知人の紹介	91
SNS	92



●講演会の開催時間の長さについて 回答:328

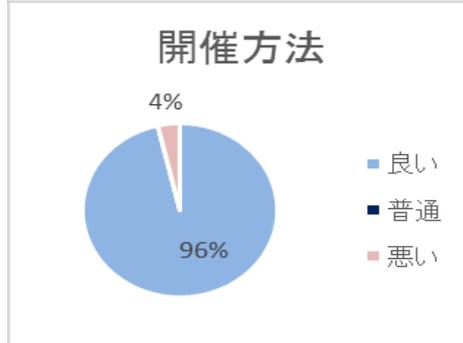
講演会の長さ	
長い	30
丁度良い	288
短い	10



第9回北海道神経難病 リハビリテーション研究会講演会Webinars

●開催方法について 回答:328件

開催方法	
良い	316
普通	0
悪い	12

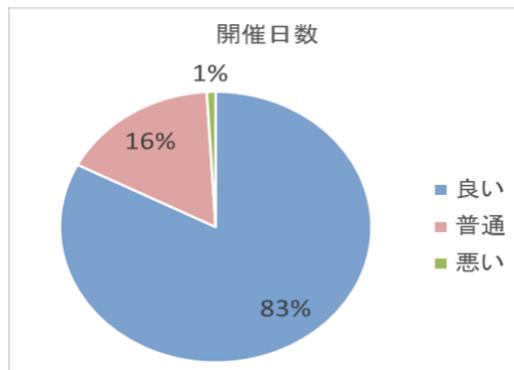


<開催方法に関してコメント>

WEB開催なので遠方からデモ、忙しい中でも参加できた	51
オンデマンド、再配信、アーカイブなど見直す方法が欲しい	10
資料が欲しい	9
休み、シフトと合わず参加できない	6
時間が都合に合わない	5
回線や音声に問題あり	5
その場での質疑応答、ディスカッションが欲しい	4
参考・引用文献を提示してもらえるとありがたい	1
演者の話している様子も見たかった	1

●開催日数について 回答:328件

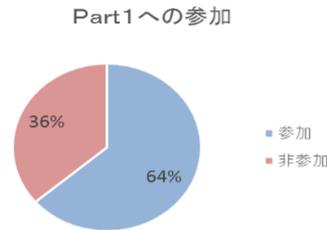
開催日数	
良い	271
普通	54
悪い	3



第9回北海道神経難病 リハビリテーション研究会講演会Webinars

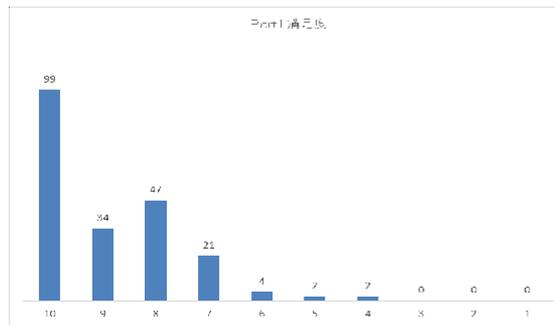
●Part1への参加 回答:328件

Part1への参加	
参加	209
非参加	119



●Part1講演内容 10段階評価 回答:209

Part1講演内容	
評価	人数
10	99
9	34
8	47
7	21
6	4
5	2
4	2
3	0
2	0
1	0



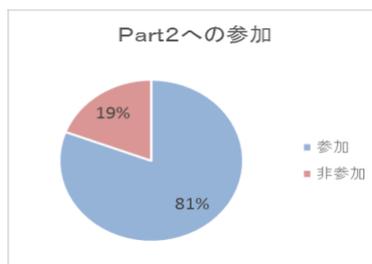
<Part I 参加者のご意見>

分かりやすかった	41
勉強になった・刺激になった	22
理解を深めた・復習になった・整理できた	14
有意義だった・貴重だった	14
難しかった	13
資料が欲しい	6
無料で良かった	4
スライドが見やすかった	3
メモを取るのに精一杯だった	3
臨床の疑問を解決できる	2
質疑応答での話が良かった	2
開始時間に間に合わなかった	2
もっと長く聴きたい	1
納得できない部分があった	1
期待していた内容ではなかった	1
質疑応答がもう少し盛り上げれば	1
質問があたりなかった	1

第9回北海道神経難病 リハビリテーション研究会講演会Webinars

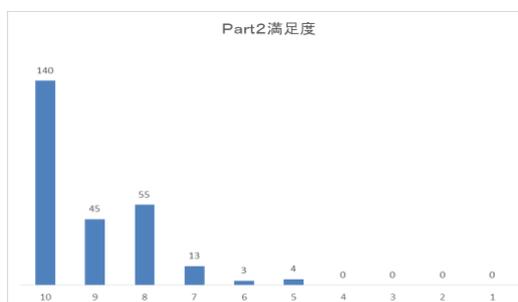
●Part2への参加 回答:328件

Part2への参加	
参加	265
非参加	63



●Part2講演内容 10段階評価 回答:209

Part2講演内容	
評価	人数
10	140
9	45
8	55
7	13
6	3
5	4
4	0
3	0
2	0
1	0



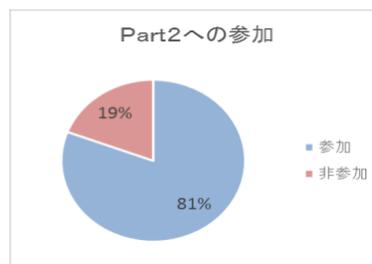
<Part II 参加者のご意見>

勉強になった・刺激になった	49
分かりやすかった	42
臨床に繋がる	34
良かった、幸せ	14
理解を深めた・再考できた	7
面白かった・興味深い内容だった	6
もっと長く聴きたい	4
共感した・納得できた	3
スライドが見やすかった	3
技術や理論に凝り固まっていなかった	1
資料が欲しい	1
話すスピードが速かった	1
質疑応答の時間が短い	1
以前聴講した内容からアップデートされていない	1
回線の調子が悪かった	1

第9回北海道神経難病 リハビリテーション研究会講演会Webinars

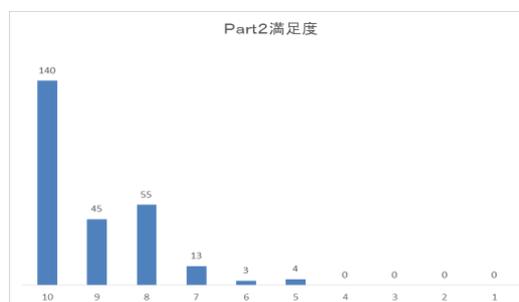
●Part2への参加 回答:328件

Part2への参加	
参加	265
非参加	63



●Part2講演内容 10段階評価 回答:209

Part2講演内容	
評価	人数
10	140
9	45
8	55
7	13
6	3
5	4
4	0
3	0
2	0
1	0



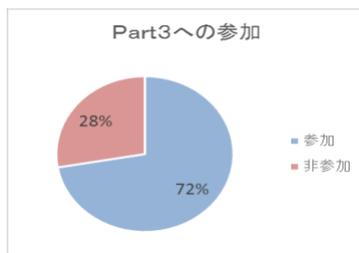
<Part II 参加者のご意見>

勉強になった・刺激になった	49
分かりやすかった	42
臨床に繋がる	34
良かった、幸せ	14
理解を深めた・再考できた	7
面白かった・興味深い内容だった	6
もっと長く聴きたい	4
共感した・納得できた	3
スライドが見やすかった	3
技術や理論に凝り固まっていなかった	1
資料が欲しい	1
話すスピードが速かった	1
質疑応答の時間が短い	1
以前聴講した内容からアップデートされていない	1
回線の調子が悪かった	1

第9回北海道神経難病 リハビリテーション研究会講演会Webinars

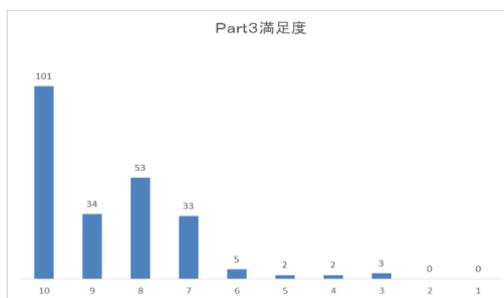
●Part3への参加 回答:328件

Part3への参加	
参加	237
非参加	91



●Part3講演内容 10段階評価 回答:233

Part2講演内容	
評価	人数
10	101
9	34
8	53
7	33
6	5
5	2
4	2
3	3
2	0
1	0



<PartⅢ参加者のご意見>

勉強になった	34
最新の情報は得難いため嬉しい	20
分かりやすかった	14
仕事に活かせる内容だった	11
根拠が提示されている点が良い	11
今後の取り組みのヒントになった	10
内容が盛り沢山で良かった	9
回線の接続や音声に問題があった	6
考える機会になった	5
内容が多すぎて難しい	4
自ら勉強しようという気持ちになった	3
岡田先生の講演が聴けて光栄	3
資料が欲しい	3
もう少し詳しく知りたかった	2
自分の分野以外でも応用可能な内容だった	2
自分の分野では応用は難しい	2
短かった	1
長かった	1
Part1, 2と重複する内容も多かった	1
前向きな内容がなく今後の関わりが分からない	1

第9回北海道神経難病 リハビリテーション研究会講演会Webinars

今後取り上げてほしいテーマ(疾患別)	
PD(疾患のみの記載含む)	49
姿勢4、非運動症状4、高次脳機能3、off時の対応やアプローチ2、摂食嚥下障害2、 言語障害、リハ栄養、心理的ケア、手足の変形、キューを用いたリハ、呼吸、 薬剤調整、在宅での関わり、すくみ、笑いの有効性、Dance for PD 各1	
ALS(疾患のみの記載含む)	23
呼吸3、緩和ケア2、 早期介入、AAC、在宅での関わり、首下がり 各1	
SCD(疾患のみ希望含む)	21
運動失調へのアプローチ2、 バランス、評価、在宅での関わり、文献レビュー 各1	
MSA(疾患のみの記載含む)	20
評価、AAC、早期介入、緩和ケア、家族支援、失調に対するリハ、文献レビュー、 最新の話題MSAバージョン 各1	
PSP(疾患のみの記載含む)	8
評価・治療2	
MS(疾患のみの記載)	6
CBD(疾患のみの記載)	4
MyD(疾患のみの記載含む)	4
呼吸1、AAC1	
MG(疾患のみの記載)	2
テーマのみ記載(疾患の記載なし)	59
在宅での関わり8、運動失調6、小脳の機能6、高次脳機能5、小児の難病5、 最新の話題をPD以外の難病テーマで4、運動学習3、栄養(リハ栄養、サルコペニア、フレイル)3、 摂食嚥下障害2、呼吸2、認知行動療法2、AAC2、姿勢2、バランス2、 自律神経障害、神経整理、評価・リハ、作業療法、運動麻痺、USN、失行、 失語、身体イメージ、疼痛、緩和ケア、福祉用具、今回と同じテーマ 各1	

第9回北海道神経難病リハビリテーション研究会 講演会
Webinars

WEBセミナー

参加費:無料

お申込みは裏面をご参照下さい

パーキンソン病のリハビリテーション ~Up To Date~

PartⅠ 2020年**9月27日(日)** 13:00~14:30

座長 北海道神経難病研究センターセンター長 森若 文雄

演者 旭川医科大学 生理学講座 神経機能分野 教授
高草木 薫 先生

「大脳基底核の機能と姿勢制御 ~パーキンソン病を中心に~」

PartⅡ 2020年**10月11日(日)** 13:00~14:30

座長 北祐会神経内科病院 理学療法士 成田 雅

演者 摂南総合病院 リハビリテーション科科长 奥埜 博之 先生

「すくみ足のリハビリテーション ~病態理解から実践アプローチ~」

PartⅢ 2020年**10月18日(日)** 13:00~14:30

座長 北海道神経難病リハビリテーション研究会幹事代表 中城 雄一

演者 畿央大学大学院健康科学研究科 准教授 岡田 洋平先生

「パーキンソン病リハビリテーションの現状と今後の展望」

